

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 1 部門第 1 区分
 【発行日】平成 18 年 6 月 8 日 (2006.6.8)

【公開番号】特開 2001-8501 (P2001-8501A)
 【公開日】平成 13 年 1 月 16 日 (2001.1.16)
 【出願番号】特願 平 11-179734
 【国際特許分類】

A 0 1 B 33/08 (2006.01)

【F I】

A 0 1 B 33/08 Z

【手続補正書】
 【提出日】平成 18 年 4 月 11 日 (2006.4.11)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 0 7
 【補正方法】変更
 【補正の内容】

【0 0 0 7】

16 は軸 17 を中心に回動可能なスタンドで、機体前方側方にて機体を支持すると共に、走行時には回動収納して走行の妨げにならないようにしている。

ギヤケース 1 の上部には、後方上方に向けてハンドル杆 18 を立設しており、機体後方を歩く作業者が、該ハンドル杆 18 の後端部を持った状態で操縦操作を行えるようにしている。

19, 19 は前記ハンドル杆 18 後端に取着のグリップ、20 はロータリ 3 の動力を断続する指クラッチレバー、21 は前記スタンド 16 の回動操作を行うスタンプレバー、22 は機体の走行速度を切替える変速レバー、23 は原動機 11 からギヤケース 1 への動力を断続する主クラッチレバーであり、該それぞれのレバー 20, 21, 22, 23 を、ハンドル杆 18 後端のグリップ 19, 19 近辺に設けて作業時の操縦操作に便利ようにしている。

ハンドル杆 18 は、ギヤケース 1 を中心として、平面視放射状に延設した 2 本のパイプ杆で構成しており、その前後中間部で連結板 24 により左右のパイプ杆を連結補強している。25 は該連結板 24 中央に設置の安全スイッチである。

【手続補正 2】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 1 1
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【0 0 1 1】

歩行型管理機は、田畑に形成の幅狭の溝 M 内を走行して作業を行う場合があり、この時歩行型管理機の走行する溝幅 W は、機体の左右中央、即ち駆動スプロケット 5 の左右中央から走行伝動ケース 4 外端までの幅 Z の約 2 倍が一般的である。そこで、図 5 に示す如く幅 X < 幅 Y 幅 Z なる扁形のクローラベルト 7 を用いることで、溝 M 内のクローラ接地幅を十分広く形成し、幅 X = 幅 Y なる一般的なクローラベルトに比べ牽引力を向上すると共に、左右幅広の走行装置 2 により走行安定性も向上する。